あの道あの景色

長い雨がしばらく続いた日々の後で
いつの間にか夏も過ぎ去っていた
ふと見る遠くの灯り　冴え渡り届く
すっかり冷たくなる早い夜の訪れ

夕闇　降りてきた静かに
誰も通らない坂道
思い出されるあの道
「また明日」と手を振った

思い出すことしかできない
あの道のあの景色の中
戻らない時　置き去りにして
心がそのまま止まっている

アスファルトの隙間からスズメノカタビラが
草刈りした後　元気に伸びていた
ふと見る近くの灯り　オレンジに光って
寂しく影を引きずる早い夜の訪れ

秋雨の匂いを感じて
胸の奥　チクリと痛む気がした
思い出されるあの道
「また明日」と手を振った

あの夏の引き返せない季節
あの道のあの景色の中
今はもう思い出すだけ
並んで歩いたあの道

戻らない時　置き去りにして
心がそのまま止まっている